

昨年度の成果

- ◎ 個別の長期目標(3年後)及び短期目標(1年後) 評価時期の改善(中間評価の実施)
→ 個別の教育的ニーズに応じた学習活動の充実
- ◎ 「年間計画及び教科との関連表」による分析
→ 合わせた指導においても、学びを各教科で捉える。(どの教育内容を どこで どのように 明確に)



くまだい すずかけ
本校HP 検索

課題

△ 指導形態別の学習評価(通知表)

- 学びの履歴をつなげていく難しさ(日生、生単等)
- 指導の目標が曖昧になり、指導が達成されない事例
- 似たような指導が繰り返されてしまう事例も
- 指導計画と通知表とは元々役割が別ではないが

「次期学習指導要領」総則より

P193 4 カリキュラム・マネジメントの充実 (第1章第2節の4)

・個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫すること。

「答申概要」 「学習指導要領改訂のポイント」より

キーワード 「学びの連続性の確保」

・障害のある子どもたちの学びの場の柔軟な選択を踏まえ、幼稚園、小・中・高等学校の学校間の連続性、各教育課程との連続性を重視。

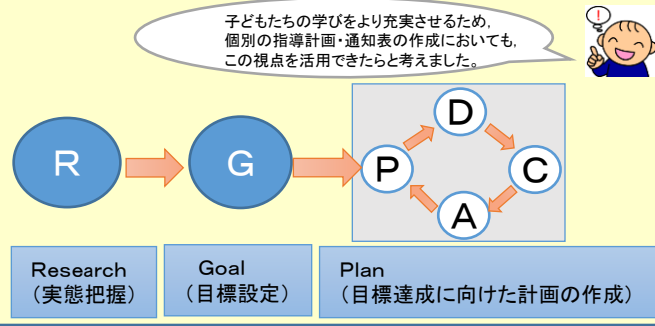
今年度の取組

4・5月	・現行の個別の指導計画及び通知表について聞き取り。改善に関する参考情報の収集
6・7月	・研究に関する方向性及び計画の作成と提案 ・「指導計画」及び「通知表」新様式の検討①
8・9月	・「指導計画」及び「通知表」新様式の検討②
10月～	・後期教育課程より新様式「指導計画」及び「通知表」の実施
1月	・様式及び教育課程についてアンケート実施 ・今年度の研究のまとめ
2月	・シンポジウムにおける今年度の実践報告
3月	・指導計画に基づいた年間評価及び次年度への志向の確認

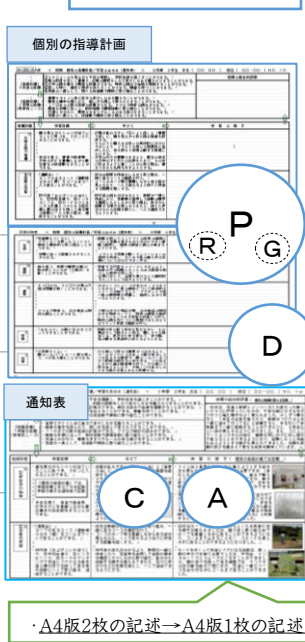
PDCAサイクルの精度を高めるために RG-PDCAサイクル®の視点で

通常Pに含まれているResearchとGoalの重要性に着目し、ResearchとGoalを独立させ、Planを立てる前段階での確かなResearch、明確なGoal設定を行うことにより、より精度の高いPlanを立案しPDCAサイクルにつなげる。

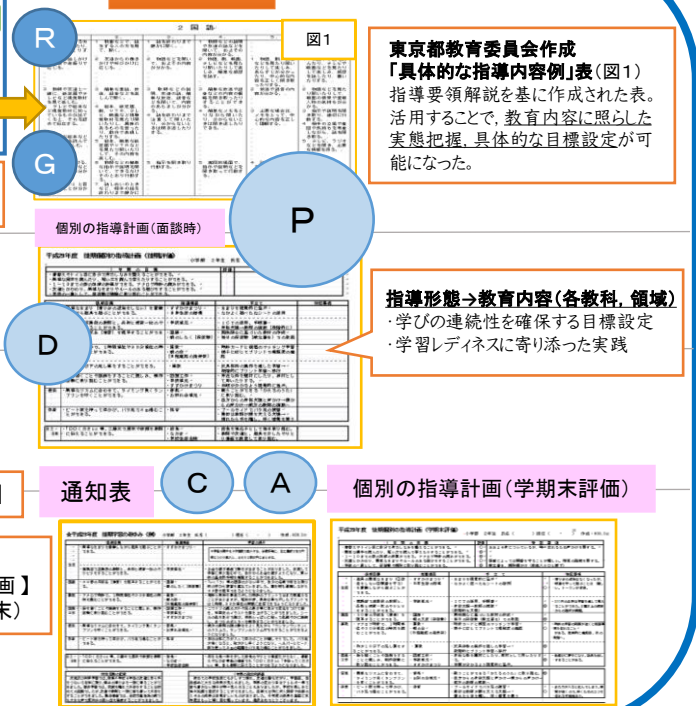
※JT等の企業が採用後 業績UP!!



H24～H29前期



H29後期～



東京都教育委員会作成「具体的な指導内容例」表(図1) 指導要領解説を基に作成された表。活用することで、教育内容に照らした実態把握、具体的な目標設定が可能になった。

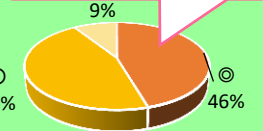
指導形態→教育内容(各教科、領域) ・学びの連続性を確保する目標設定 ・学習レディネスに寄り添った実践

個別の指導計画(新)についてのアンケート結果

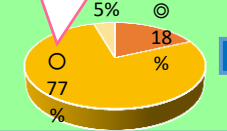
各教科毎に目標設定を行うことで合わせた指導における目標がより具体的になった。



各学部で学ぶ内容の、段階的なつながりについて職員間で確認することができた



次年度以降に、連続性が確保されたかが明らかになってくるため



次年度の課題

- ・個別の指導計画のモニタリング体制の整備 (例: 学部内での読み合わせ、チームとして課題の共有等)
- ・次期学習指導要領を踏まえた各教科、領域における「年間指導計画」の作成
- ・通知表における三段階評価の導入(学校・家庭間で課題の共有)
- ・ポートフォリオ評価等の検討(自己評価を支えるために)

H30 1月時実施
個別の指導計画(新)実施後アンケートより
(回答総数22人)

良かった 概ね良い 特になし 要改善

◎ ○ ○ ○ △